

化学・繊維

1. 評価対象企業（21 社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ（新規）、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学（新規）、三井化学、J S R、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	14
計		19	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 29 名（所属先 23 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価分野全般において、項目の削除または内容・配点の変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.6 点（昨年度 68.7 点）、総合評価点の標準偏差は 7.6 点（昨年度 9.2 点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度 71%）、**説明会等**が 70%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が 71%（昨年度 68%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 66%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 62%（昨年度 63%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、本年度で最も高い平均得点率となったのは、次の項目（**自主的情報開示**の中の 1 項目）であった。

- ・ 「開示された公表情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していますか」（平均得点率 75%〔昨年度 70%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：90%台 1 社・80%台 8 社・70%台 8 社・60%台 3 社・40%台 1 社）

④ 一方、平均得点率が 65%以下となったものは次の 5 項目であった。

- (a) 「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか」（平均得点率 54%〔昨年度 60%〕）（得点率：30%台 4 社・40%台 5 社・50%台 4 社・60%台 4 社・70%台 3 社・80%1 社）
- (b) 「疫病や自然災害等のリスクによる影響および対策について十分に開示されていますか」（平均得点率 60%）（得点率：50%9 社・60%台 11 社・70%台 1 社）
- (c) 「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか」（平均得点率 64%〔昨年度 68%〕）（得点率：40%台 2 社・50%台 1 社・60%台 11 社・70%台 6 社・80%台 1 社）
- (d) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含めて十分な説明がなされていますか」（平均得点率 65%〔昨年度 72%〕）（得点率：50%台 2 社・60%台 13 社・70%台 6 社）
- (e) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率 65%〔昨年度 64%〕）（得点率：40%台 2 社・50%台 4 社・60%台 9 社・70%台 4 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

⑤ 非財務情報に関連する次の項目（自主的情報開示の中の 1 項目）は、以下のとおりとなった。

- ・ 「統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか」（平均得点率 69%）（得点率：50%台 2 社・60%台 10 社・70%台 6 社・80%台 2 社・90%台 1 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学（ディスクロージャー優良企業〔5 回目〕、総合評価点 82.4 点〔昨年度比+1.2 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（得点率〈以下省略〉86%）、説明会（84%）、フェア・ディスクロージャー（77%）、コーポレート・ガバナンス関連（79%）、自主的情報開示（78%）が第 2 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣が経営方針および目標を定量的・定性的に十分説明しており、スモールミーティング等も積極的に開催していること、経営トップだけでなく広く経営陣が IR 対応を積極的に行っていることを評価する声が寄せられた。また、中期経営計画と ESG が一貫した文脈で述べられており整合性が高いとの声もあった。一方で、景気動向により経営方針が大きく変わる印象があるとの声や事業活動を通じて環境貢献や社会貢献を積極的に提示してほしいとの要望もあった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮されていること」も最も高い評価となった。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」は、同得点第 2 位となった。これらに関連して、定量情報が豊富で外部環境の情報開示もレベルが高いこと、中期の業績変動要因、会社の方向性、長期戦略等に関する質の高い議論ができることを評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおける補足説明が十分であること」が最も高い評価となった。他の 4 項目は第 2 位または同得点第 2 位であったが、いずれも昨年度に比べ得点率を上げた。これらに関連して、インタビューでの説明が充実している、業績変動要素の理解がしやすいとの声が寄せられ、また、決算説明会に加え経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝える姿勢を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が、同得点第 1 位となった。また、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」も評価された。これらに関連して、決算説明会の音声再生および要旨を日英両言語で遅滞なく公表し、質疑応答にも対応している点の評価する声が寄せられた。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、全 4 項目中 3 項目で同得点第 1 位となったが、「資本政策、株

主還元策が十分に説明されていること」は、同得点第3位であった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が、評価された。これに関連して、統合報告書の内容を評価する声が寄せられ、また、ESG 説明会、経営概況説明会やスモールミーティングの開催を評価する声もあった。なお、「開示された公表情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」については、第7位にとどまった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 住友化学（総合評価点 79.0 点〔昨年度比+1.9 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第2位（82%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（75%）、**説明会等**が第4位（78%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第5位（72%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**の得点率および順位が共に大きく上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮されていること」が高い評価となった。これに関連して、定量情報が豊富で外部環境の情報開示もレベルが高いこと、中期の業績変動要因、会社の方向性、長期戦略等に関する質の高い議論ができることを評価する声が寄せられた。「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組み内容を投資家に的確に伝えていること」も評価された。これに関連して、ESG の取組みや情報開示が優れている、環境貢献等も適切に開示し企業価値向上につなげようとしているとの声が寄せられた。なお、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」は、同得点第5位にとどまった。これに関連して、説明内容にポジティブ・バイアスが見られる印象との声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「インタビューにおける補足説明が十分であること」が高い評価となった。「決算説明会における会社側の説明が十分であること」は同得点第6位となったが、昨年度に比べ、得点率、順位共に上がった。これらに関連して、高水準の開示資料を作成している、インタビューでの説明が充実しているとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「疫病や自然災害等のリスクによる影響および対策について十分に開示されていること」が最も高い評価となった。また、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」も評価された。これに関連して、決算説明会の音声再生が速やかで掲載期間も長いこと、状況に応じてツールを使い分けるなど柔軟な対応をとっていることを評価する声が寄せられた。なお、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」は、同得点第12位にとどまった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が第6位だったが、昨年度に比べ、得点率は改善した。これに関連して、資本政策、ガバナンス体制や中期目標および KPI 等が整合的に開示されていると評価する声が寄せられた。なお、親子上場に関する十分な説明を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、全3項目中2項目が最も高い評価となった。また、「開示された公表情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」も高い評価となった。これらに関連して、コロナ禍においても積極的に説明会を開催している点を評価する声が多数寄せられ、ESG 説明会、経営戦略説明会、事業部説明会等の内容が充実していたとの声もあった。また、統合報告書やインベスターズハンドブックの内容を評価する声もあった。

第3位 日産化学（総合評価点 77.9 点〔昨年度比-7.6 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**説明会等**（87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（84%）が第1位、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第6位（73%）、**自主的情報開示**が同得点第17位（53%）となった。昨年度に比べ、5分野全てで得点率が下がり、特に**自主的情報開示**の下げが大きかった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が最も高い評価となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮されていること」も高い評価となった。これらに関連して、低収益事業や売上が下振れした製品についても積極的にコメントしていること、情報量が豊富で詳細なデータが開示されていること、業績・事業環境に関する説明力に加え、今後の見通しに関する情報も充実していることを評価する声が寄せられた。一方、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取り組み内容を投資家に的確に伝えていること」は、第 7 位となり、得点率も平均得点率をやや上回る程度であった。これに関連して、CFO が ESG や対話の重要性を十分に理解していると評価する声があった。なお、CFO の積極的な IR 姿勢を評価しつつ、経営トップの関与を一層求める声もあった。
- ③ **説明会等**においては、5 項目全てが最も高い評価となった。これに関連して、会社の方針や将来見通し、過去の実績についての CFO による詳細な説明、説明会記載データの充実と継続性、インタビューにおける補足資料の充実を評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」が評価された。これに関連して、ウェブの活用により情報開示や対話が引き続き充実している、情報開示の内容がさらに充実したと評価する声のほか、質疑応答直後に聞くことのできるリプレイ機能を期待する声もあった。一方、「疫病や自然災害等のリスクによる影響および対策について十分に開示されていること」は、平均得点率を下回った。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、全 4 項目中 3 項目が第 1 位または同得点第 1 位となった。「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」も評価された。これらに関連して、経営の KPI と株主還元策が明確であることを評価する声が寄せられた。なお、女性取締役の選任に関して評価する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか」および「開示された公表情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」が、平均得点率を下回った。これらに関連して、次世代半導体材料に関するバーチャルセミナーの開催や統合報告書の内容を評価する声が寄せられた。一方、会社主催の事業説明会等の頻度の少なさを指摘する声があった。

以 上

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4 (配点 31点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目5 (配点 30点)		3. フェア・ディスクローチャー 評価項目3 (配点 12点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目4 (配点 13点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点 14点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	82.4	26.7	1	25.3	2	9.2	2	10.3	2	10.9	2	3
2	4005 住友化学	79.0	25.4	2	23.4	4	9.0	3	9.4	5	11.8	1	4
3	4021 日産化学	77.9	24.7	4	26.1	1	8.8	6	10.9	1	7.4	17	1
4	3407 旭化成	77.3	24.9	3	22.7	6	9.4	1	10.0	3	10.3	3	5
5	4204 積水化学工業	75.2	24.1	5	23.5	3	8.9	5	10.0	3	8.7	9	2
6	4208 宇部興産	73.2	23.1	6	22.8	5	8.8	6	9.1	7	9.4	6	6
7	4185 JSR	70.7	22.4	7	22.5	8	8.1	18	9.2	6	8.5	12	10
8	4004 昭和電工	70.2	21.8	10	22.7	6	8.6	10	8.4	12	8.7	9	8
9	4061 デンカ	69.9	22.3	8	22.0	9	8.3	14	9.1	7	8.2	15	
10	4188 三菱ケミカルホールディングス	69.7	22.0	9	19.4	18	9.0	3	9.0	9	10.3	3	7
11	3401 帝人	68.0	21.2	12	20.2	14	8.7	8	8.6	11	9.3	7	9
12	4612 日本ベイントホールディングス	67.1	21.4	11	20.3	12	8.6	10	8.3	13	8.5	12	12
13	3402 東レ	66.7	20.8	15	19.5	17	8.7	8	8.0	17	9.7	5	15
14	4182 三菱瓦斯化学	66.0	21.0	13	20.3	12	7.7	19	8.2	15	8.8	8	
15	4042 東ソー	65.8	20.0	18	21.4	10	8.2	16	7.5	18	8.7	9	13
16	4091 日本酸素ホールディングス	65.2	20.3	17	20.8	11	8.4	12	8.3	13	7.4	17	11
17	4202 ダイセル	64.6	20.7	16	18.5	19	8.4	12	8.7	10	8.3	14	16
18	4088 エア・ウォーター	62.7	19.0	19	19.9	15	8.3	14	8.2	15	7.3	19	17
19	4063 信越化学工業	62.1	21.0	13	19.8	16	8.2	16	5.8	21	7.3	19	14
20	4118 カネカ	53.8	17.2	20	15.6	21	7.3	20	6.1	20	7.6	16	19
21	3405 クレレ	52.4	15.8	21	16.5	20	7.2	21	7.0	19	5.9	21	18
	評価対象企業評価平均点	68.55	21.70		21.10		8.46		8.58		8.71		

2021年度評価項目および配点(化学・繊維)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (31点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (30点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
①決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が、T Dnet経由またはウェブサイトで入手できますか。	3
②説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	8
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー (12点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	7
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
(3)疫病や自然災害等のリスク情報の開示	
・疫病や自然災害等のリスクによる影響および対策について十分に開示されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (13点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
(2)目標とする経営指標等	
①重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、ROIC等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
②中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	3
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (14点)	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。〔過去1年間を目安に評価〕【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5
③開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。	2

化学・繊維専門部会委員

部 会 長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村證券
	木村 光宏	野村アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（29名）

浅川 裕之	パインブリッジ・インベストメンツ	中原 周一	東海東京調査センター
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	西平 孝	岡三証券
伊藤 健悟	QUICK	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
今津 拓洋	アセットマネジメント One	野口 英彦	アセットマネジメント One
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	福島 大輔	野村證券
岡寄 茂樹	野村證券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	宮本 剛	SMBC 日興証券
河井 啓朗	明治安田アセットマネジメント	森 知勝	富国生命保険
木村 光宏	野村アセットマネジメント	山田 幹也	みずほ証券
河野 孝臣	野村證券	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
阪口 和輝	大和証券	吉田 篤	みずほ証券
澤砥 正美	SBI 証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
鈴木 洋平	富国生命投資顧問	渡邊 亮一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。